

# 作業療法士の活動が茨城新聞に掲載されました！

平成 29 年 3 月 8 日の茨城新聞に本会の作業療法士の活動が紹介されました。有志の作業療法士で構成される「認知症作業療法と地域の会」は、東海村を中心に地域活動を行なっています。当会は、独自に健康に関するイベントを企画・運営したり、デイサービス等に出向いてレクリエーションを行ったりしています。今回は、平成 29 年 3 月 4 日に東海村社会福祉協議会の「縁側につどう家 “であい”」にて県立東海高校の学生さんと一緒に地域交流を実施したことが記事となっています。県立東海高校では、毎年、ボランティアの授業を 4 時間（2 時間×2 日間）担当させていただいており、その繋がりから本催しが実現しています。村内での反響も大きく、これまでも何度か掲載していただいている茨城新聞社様には大変感謝しております。これからも精力的に活動していきたいと思っております！

（文責：認知症作業療法と地域の会 代表 大内康雄）



**東海高生、高齢者と交流**

村内の介護施設 体操やゲーム一緒に

高齢者との交流を通じ、側につどう家「であい」で開かれ、県立東海高の生徒が地域の高齢者と触れ合いながらリハビリや認知症予防の活動に取り組んだ。

この催しは、作業療法士でつくるボランティア団体「認知症作業療法と地域の会」（大内康雄代表）が企画。「ゆっくりはっきり話そう」「目フォトフレームの制作で高齢者をサポートする高校生ら＝東海村 豊白

の高さを合わせて話しを聞くこと」など、高齢者との接し方について事前に説明を受けた同高の男子生徒5人が参加した。

高校生は同センターの利用者と共に、時代劇やアニメの主題歌に合わせて体を動かすリハビリ体操や、チューリップやタンポポ、桜の花が数多く描かれた用紙を見て、それぞれの花がいくつあるのかを数えるゲームを行った。その後、高校生が高齢者をサポートしながらフォトフレームを制作し、色紙やリボン、テープなどできれいに装飾した。同センターの利用者は「若い人たちが優しく過ごさせてよかった。自分も若返った感じがした」と笑顔。

同高2年の坪一慶さん(17)は「始めはコミュニケーションを取るのが難しかったが、最後は楽しく会話ができた。この経験を機に、自分からお年寄りに接していきたい」と話した。

(勝村真悟)